

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500360
法人名	医療法人 愛寿会
事業所名	グループホーム多喜浜
所在地	愛媛県新居浜市多喜浜2丁目4番43号
自己評価作成日	平成29年2月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族の面会が多くあるので、家族支援に力を入れている。外出行事に一緒に参加して頂いたり、面会時、些細な事でも気になる事をお聞きし、職員間で話し合いを行い改善している。また、「安心、満足度、信頼度」をモットーに一人ひとりが家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活でき、利用者様の明るい笑顔や笑いが絶えない毎日が送れるよう頑張っています。日々の健康管理や、一般状態の観察も丁寧に行っています。自治会や老人会の人たちとの交流の機会が増えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●年2回、家族会を実施しており多数の参加がある。12月の家族会時には、巻き寿司等を皆で作ったり、食事したりして交流した。家族同士、又、家族と職員の親睦を深める機会にもなっている。
 ●法人本部の献立表をもとにして、利用者や食材の買い物に出かけて食事作りを行っている。利用者には、下ごしらえや盛り付け等を行えるよう支援している。職員と話をしながら、お盆を拭くことが日課になっている方もいる。職員も利用者と同じものを食べながら介助を行っていた。
 ●建物はぐるっと廻れるような造りで、真ん中に庭がある。庭では、野菜を育てたりしている。居間には、加湿器を2台設置して湿度調整を行っている。中央ホールには、ピアノやソファを置き、音楽療法やレクリエーション、ゲーム等の時に使用している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム多喜浜

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)
氏名 印南亜朱佳

評価完了日 平成29年 2月 14日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者一人一人が安心、安全で満足感のある生活を送れる事を理念とし、事業所内の目につきやすい所に掲示している。 また、朝の申し送りの際、理念・運営心得を読み上げて、職員間で共有し個々の心に刻み反映するように心掛けている。	
			(外部評価) 法人理念と運営理念は、玄関から居間に続く廊下に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 開設5年となり、地域とのつながりが増すよう、外出行事を増やしている。また、地域の防災マップ作りに参加し、地域の人達と共同で防災訓練を行ったり、老人会の人たちを招いて一緒に輪投げ大会を実施した。2か月に一回ボランティアによる慰問や保育園からの訪問も続いており、地域との交流も継続できている。	
			(外部評価) 今年度から老人会の人達との交流を始めており、利用者の良い表情がみられるようだ。当日は、婦人会の方も来て、いなりずしを作ってくれている。又、校区の敬老会や運動会・文化祭についても、今年度から参加し始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人達と防災訓練をしたり、事業所へ招き行事を実施する事で認知症に対する理解を深められるようにしている。運営推進会議にて、地域で困っている事があれば、相談してもらえるような体制作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者の近況報告や健康状態を報告しながら、意見を頂いたり、施設内での取り組み等を説明している。以前までは外部から招いて勉強会を実施する事が少なかったが様々な分野の方を招き、勉強会を実施することでご家族の方からも参加して良かったとの声を頂いている。</p> <p>(外部評価) 家族や自治会長、民生委員、市の担当者の参加を得て会議を行っている。家族からの要望があり、看取りや緩和ケアについての勉強会を行った。参加者の関心が高かったため、さらに、口腔ケア・認知症疾患医療センターの方の講話等を採り入れて会議を行った。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進委員として、毎回、地域包括支援センターの担当者の出席があり、事業所の実情を話し、サービスの取り組み方などのアドバイスを頂いている。また、2か月に1度介護相談員の方が来られ、介護相談員の方からもアドバイスを頂き、意見交換をしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に参加してアドバイス等がある。2ヶ月ごとに介護相談員の訪問があり、利用者の暮らしの希望等を聞いてくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 内部研修を行ったり、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日中は玄関の鍵は開けるようにし外に出たい方には職員が寄り添い外の空気を吸う時間を作っている。</p> <p>(外部評価) 日中玄関に鍵はかけず、玄関先のベンチに腰かけて過ごす利用者には、散歩に誘う等して支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃から虐待とみなされるような発言や行動がないよう注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、成年後見制度を利用していた方がいたので、その際、後見人となった方を招き、運営推進会議で成年後見制度について勉強会をして頂いた。研修会があれば、参加し、今後に生かしていきたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を十分におこなっている。疑問点に関して、丁寧に説明し、同意を得ている。また、分からない事は、いつでも問い合わせるようお伝えしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関にご意見箱を設置しているが、なかなか意見が集まらない為、運営推進会議や、家族会、面会時などに、意見や要望がないかお聞きしている。家族から要望がでた時には、職員間で話し合いを行い、サービス提供に反映している。家族の方に参加してもらう行事を増やし、行事の時に一緒に食事を食べながら困っている事などをゆっくりと聞く時間を設けている。 (外部評価) 年2回、家族会を実施しており多数の参加がある。12月の家族会時には、巻き寿司等を皆で作ったり、食事したりして交流した。家族同士、又、家族と職員の親睦を深める機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			朝の申し送り時や、月に1回カンファレンスを行い、職員の意見を聞ける機会を設けている。意見や提案は、利用者のケアや業務に反映できるよう努めている。	
			(外部評価)	
			ユニットごとにレクリエーションやゲームを行っていたが、職員からの提案で、ユニットの間にある中央ホールを利用し合同で行い、両ユニットの利用者が好みで参加できるようにしている。お花見の場所や外出先については、担当職員が事前に下調べして提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の勤務状況を把握し、職員にとって働きやすい環境や働きやすい条件となるよう可能な限り努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部研修の案内を知らせ、職員に参加を勧めている。月1回内部研修を行い、一人一人のケアの在り方を見直している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			新居浜市の地域密着部会の研修に参加し、他施設の職員との意見交換や交流を行っている。他施設の管理者と意見交換する事でサービスの質を向上できるよう努力している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			初回面談時、本人、家族の不安や要望に耳を傾けている。また、今までの生活歴を聞き、その生活が継続できるよう配慮することで、安心感を抱いて入居できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安に思っている事や困っていること等や、要望などを細かく話して頂き、少しでも家族の要望に沿えるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回相談時、利用者や家族と話をすることで、現在必要なサービスが何かを関係者と話し合い検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る範囲の手伝いをお願いしている。洗濯物を一緒に畳んだり、食事の時使用したお盆拭きをお願いしている。手伝いが終わると感謝を伝える事でその人の意欲が向上するよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 通院介助を出来るだけ家族にお願いしたり、面会時は部屋でゆっくり過ごせるよう心掛けている。行事の際は、家族にも声をかけ、一緒に参加して頂くことで、家族との絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族、友人、知人が気軽に訪問できるような雰囲気作りに取り組んでいる。 (外部評価) 「自宅に帰ってみたい」と希望する利用者には、職員が付き添って支援した事例がある。家族と過ごしたり、周辺を散歩したりできるように支援した。週2回、音楽療法の講師の訪問があり、歌の好きな利用者は心待ちにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の良い環境が保てるように気配りをしている。トラブルが起きた時には職員が間に入り、関係性が悪くならないように、職員が対応している。利用者が孤立しないように職員が配慮しながら声掛けしている。日中の空いた時間を利用して、各棟の話好きな方を中央ホールに招き職員を交えて交流する機会を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、必要なサービスに繋がると共に、今後も相談などにのれる事を伝える。 入院や入所時には施設訪問し、経過をみている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の本人の発する言葉から利用者一人一人の希望や意向を把握している。困難な場合は、家族と話し合いながら、少しでも希望が叶うよう努めている。 (外部評価) 調査訪問時には、会話の中で「〇〇さんの子供の頃はどうかだった？」等と話しかけて、これまでの暮らしの様子や経験談等を聞いていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの経験や生活歴、生活環境、これまでのサービス利用状況を本人・家族・サービス提供事業所より情報提供を受け、また、日々の介護からも把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 3か月に1度ケアカンファレンスを行い、他職種が話し合う事で、現状の把握に努めている。日々の変化は毎朝の申し送りにて情報共有している。また、担当職員が半年に1度アセスメントシートを記入し現在の状態の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 担当者が他の職員と相談し情報を収集、計画作成者と話し合いを行い計画書を作成している。短期目標は3か月に1度見直しを行い、必要に応じて家族を交えてのカンファレンスを行っている。その人らしい生活が送れるように関係者と話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 半年に一回、個々の担当職員が利用者のADLや希望を聞き取り、アセスメントシートに、これまでと異なる部分のみを記入している。日々の介護記録には、上段に短期目標を記入しており、番号を振り、記録内容と連動するように工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 本人の言動や行動が分かるように記録をしている。職員間で情報を共有し、利用者の現状にあった計画が実践でき、必要に応じて介護計画の見直しにいかしている。職員間での情報共有の為、申し送りノート、訪問看護の職員との情報交換として医療連携ノートを使用している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の希望に応じて、個別に外出に行ったり、買い物に行く等柔軟な対応を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 自治会や老人会の人たちを招いて輪投げを行ったり、地域の運動会への参加、敬老会への参加を行い地域との交流を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 必要時には家族との受診に職員が付き添い、かかりつけ医に日常の情報提供を行っている。かかりつけ医との連携を密にし適切な医療が受けられるように支援している。また、歯科衛生士による、口腔ケアがあり、治療が必要であれば、本人・家族の意向に沿って訪問歯科治療を受けている。	
			(外部評価) 週1回、歯科衛生士による口腔ケアを受けている。又、昨年の7月から、週3回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理を行っている。「医療連携ノート」をつくり、利用者の様子や気になること等を記入し、情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護ステーションと連携し、訪問看護師は利用者全員の状態を把握し、適切なアドバイスを行っている。利用者の変化についても職員全員で情報を共有し早めの受診対応を行っている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時、家族とも相談しながら、主治医、看護師、MSWなどと情報交換し、家族の意向を尊重しながら対応している。入院中は病室訪問し看護師より状態確認をしている。入退院時、正確な情報交換が出来るように医療連携シートを活用したり、退院時カンファレンスに参加している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の希望により、看取り支援を行った。施設での限られた看護、介護を十分説明し、理解を頂いた上で医療機関、訪問看護ステーションと連携しながら家族や本人に寄り添った支援を行う事ができた。	
			(外部評価) 今年度、2名の利用者の看取りを支援している。入居時から最期まで事業所で過ごすことを希望していた利用者は、受診から往診に切り替え、訪問看護も受けながら過ごせるよう支援した。又、親族に囲まれ最期を過ごせるよう支援した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、マニュアルに沿った対応を行っている。また、個人ファイルには既往歴や薬事情報も分かりやすく整理している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			消防署の指示のもとに年2回、自衛消防訓練を重ねている。大規模災害時に備え、地域の防災マップ作りに参加したり、大災害時を想定した避難訓練を地域の人たちに協力してもらい実施した。	
			(外部評価)	
		5月の運営推進会時には、家族や自治会員や市の担当者と一緒に津波想定避難訓練を実施し、地域の集会所や近くの4階建ての協力施設まで利用者の避難を行った。又、夜間想定防火避難訓練も初めて実施し、消防署員からアドバイスを得た。事業所の倉庫には、缶詰・水・お米等を備蓄している。	避難訓練の実施から課題が明らかになっており、今後は、さらに、地域との協力体制を築く取り組み等についても具体的にすすめてほしい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者一人ひとりの人格を尊重しながらも馴染みの関係性が出来た声掛けになっている。昔、身に着けた事など職員に教えてくださるなど誇りを持った生活が送れている。プライバシーを損なわない声掛け対応を行っている。	
		(外部評価)		
		調査訪問時には、中央ホールでレクリエーションを行っていたが、参加を好まない利用者は居間で好きなテレビを観て過ごしていた。洗濯物たたみや庭の草引き、植物の水やり等、その時々声をかけ、希望を聞きながら一緒に行えるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			何気ない会話の中からも、その人の希望を聞き出し、自己決定した上で、それが実現できるかどうかを職員間で話し合い、実施していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 体調の良い日は職員と外出するなどし、体調不良時は部屋で休んでいただくなど、その日の体調や気分に合わせて利用者のペースで生活できるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時には、職員と一緒に服を選んだり、入浴後にはきちんと整容を行っている。個々の好みや、状況に応じたおしゃれ作りができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は本部の献立表をもとに作っている。下ごしらえやお盆拭きなど、無理のない程度手伝ってもらっている。コップやお茶碗は個々で持参された馴染みの物を使用している。	
			(外部評価) 法人本部の献立表をもとにして、利用者と食材の買い物に出かけて食事作りを行っている。利用者には、下ごしらえや盛り付け等を行えるよう支援している。職員と話をしながらお盆を拭くことが日課になっている方もいる。職員も利用者と同じものを食べながら介助を行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の水分量、食事量を記録し栄養状態の観察を行っている。食事量の低下時は主治医に相談している。食事摂取量にムラがあり、体重減少が見られる方は主治医・家族と相談し、3食以外にも本人の好むものを好きな時間に摂取してもらい少しでも体重が増えるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後のうがいや義歯洗浄、歯磨きの声掛け誘導を行い、本人に口腔ケアを行ってもらっている。必要時、歯科衛生士による口腔ケアを実施している。夜は義歯の消毒を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 「生活リズムパターン」の記録で一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。自尊心を傷つけないよう声掛けに注意を払っている。出来る限りトイレでの排泄が行えるよう職員2人介助をする等しトイレに座る時間を設けている。	
			(外部評価) 立位が難しいため、紙おむつで過ごしていた利用者について、職員で話し合い、トイレで排泄できるような支援に取り組んだ事例がある。トイレで排泄できるようになったことで、便秘の解消にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表で排便確認をし、水分摂取の声掛けや散歩、体操を促しながら、便秘を予防している。便秘時には下剤の服用にて排便調節を行っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴支援を行っている。利用者のその日の体調や気分に応じて無理強いのない入浴を支援している。	
			(外部評価) 毎回、入浴剤を使用している。シャンプーやボディソープ等は、事業所で準備した物を使用している。調査訪問日の視察時には、午後からの入浴支援のため脱衣場はエアコンで暖かくしていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 電気をつけたままの方が安心される方には、夜間電気をつけたまま休んで頂くなど、個別に応じた支援を行っている。一人ひとりの体調や習慣に合わせた休息を支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬袋には名前、日付、朝、昼、夕の服用法を記入している。服用時には名前と顔の確認を行っている。服用後は毎回、投薬した者が「印」を押したり、サインをしている。薬の目的や用法については薬局が発行している説明書で理解している。受診の結果や薬の変更についても申し送りしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物を畳んだり、お盆拭き、野菜の下ごしらえ等を行うことで役割を見つけ張りのある生活が送れるよう支援している。外に出る事が好きな方には、職員と共に買い物に出かける等し、気分転換が図れるよう支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事以外での外出を楽しんでいる。施設周辺の散歩やドライブを兼ねてスーパーへの買い物等支援をおこない、車椅子の方も喜んで外出して頂けている。また、家族との外食なども楽しまれている。	
			(外部評価) ユニット合同で、家族と一緒にお花見に出かけており、玄関には集合写真を飾っていた。校区の運動会や敬老会・文化祭に参加することで、地域に顔見知りの方が増えている。	さらに、日常の中でもちょっと出かけて過ごすような機会を工夫してみしてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は基本的に家族が行っているが買い物に行った際には個人個人が財布を持ち、職員が見守る中で支払いを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者から電話の希望がある時には、その都度対応している。また、年末には年賀状作成を行い、ハガキのやり取りができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室での太陽の刺激を軽減するため、すだれやカーテン等にて調整している。空調調節を行い、利用者が不快なく過ごせるよう支援し、加湿器の代わりにペットボトルを使用し加湿を行っている。 また、季節に応じた展示物を作成したり、季節の花を飾る事で季節感が味わえるように工夫している。	
			(外部評価) 建物はぐるっと廻れるような造りで、真ん中に庭がある。庭では、野菜を育てたりしている。居間には、加湿器を2台設置して湿度調整を行っている。中央ホールには、ピアノやソファを置き、音楽療法やレクリエーション、ゲーム等の時に使用している。夏の暑い時期には、ベランダにすだれをかけて日よけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有のフロアで思い思いの時間が過ごせるようにしている。 また、陽の当たる所にベンチを設置することで、日光浴をしながら、他利用者の方や職員と外を見ながら会話ができるスペースを作る等工夫している。居室で過ごす一人の時間も大切にしている。	
			(外部評価) さらに、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして本人が居心地良く過ごせるように、工夫してみようか。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談し、夫の写真、家族写真など、本人の好まれる雑誌など、馴染みものを持って来ていただき、自宅に近い生活が送れるようしている。	
			(外部評価) 自宅で使っていた机や椅子、家族の写真等を持ち込んでいる。外の様子が気になり落ち着かない利用者の居室は、窓のカーテンを閉めていた。自宅で使っていたお気に入りの椅子を持ち込んでいる方は、家族来訪時にその椅子に座っておしゃべり等をして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下が回路式になっており、一人でも建物内を自由に移動する事が出来るようになっている。 また、オープンキッチンになっている為、下膳をする事が可能な利用者の方は自分で行っている。 棟内バリアフリーにて手すりを設置している事で、安全に建物内を移動出来、自立した生活が送れるようになっている。	